

令和 4(2022)年度

学修状況等の把握に関する
アンケート結果における改善策

(大学版)

健康栄養学部 管理栄養学科

看護学部 看護学科

医療科学部 臨床検査学科

修文大学 IR本部

<健康栄養学部 改善策>

健康栄養学部の学生の学習時間を上げるためどのようなことを行えばよいか。

- 1 前の週に予告し、小テストを行う。採点を行い、次の週にその解説等を行う。(点数結果が評価反映されることを伝える。)
- 2 授業ごとに課題(課題を出す理由等を事前に説明しておく。)を出し、次週に提出させる。(次週に添削した課題の講評を行ったうえで、学生に返す。課題提出並びに内容等が成績評価に繋がることを理解させておく。)
- 3 臨地実習前にそれぞれの実習施設の施設について調べてまとめさせ提出させる。添削をして講評を行ったうえで、学生に返す。
実習先からの事前課題を提出予定の1週間前までに提出させ、添削を行って訂正後再度提出させる。
また、グループワークを取り入れ学生間での話し合いの時間を多くする。
- 4 講義は、ディスカッションを取り入れ学生参加型とする。

以上の内容について、学部の先生方に提案し各科目において可能な方法について検討してもらうこととする。

<看護学部 改善策>

問1 授業の予習・復習等（レポート作成及び国家試験対策の自習を含む）に使った1週間の合計学習時間

1年生はほぼ例年と変わらず、5.3時間（前年5.6時間）であった。調査時期から学生の背景を考えると、定期試験の1ヶ月半前であり、講義も終盤を迎える時期である。5時間という時間から、毎日1時間程度か土日で集中して学習している傾向が窺える。成績が悪くなる傾向はなく、休学や退学もほとんどいないことから、大きな問題はないと考える。しかしながら、2年生は大幅に減少し7.8時間（前年10.7時間）であった。2年生は専門基礎科目、専門科目の必修がほとんどであるため、学習時間の減少は原級留め置きにも影響する。現に令和4年度の原級留め置きの学生数は22名（うち2名休学）であった。1年生から2時間程度学習時間は増えているが、ほぼ同様のスケジュールで学習している傾向も窺える。

⇒改善策

2年生の自己学習時間の目安として、1年生の倍程度増やせるように、計画的に学習するように指導する必要があると考える。

計画的で継続的な学習を指導することで、原級留め置きの学生数を減少させる必要がある。

問2 問1で回答した予習・復習時間などについてどう感じているか

この問いにおいては、2年生の「不足している」43%であり、問1の結果が影響していると考えられる。前年「不足している」26%、からも、学習時間不足に危機感を自覚している学生が増えたと言え、3年生進級後に期待できる可能性がある。しかし、全体の6割は「やや不十分」や「まあまあ十分」であり、危機感の自覚に差がみられる。

⇒改善策

学生指導時には、前年の学習時間数のデータを用いて指導し、学習時間が減少していることを自覚させる必要がある。

自分自身の学習時間と成績の関係を各自で考えさせ、自覚させて上でそれぞれの学習計画を立てるように指導すると良いと考える。

問3 問2で④不足している③やや不足していると回答した人は、不足している原因は何でしょう。

1年生と2年生において、例年より最も増えている原因が「スマートフォン・タブレット等の使用時間が多い」であり倍以上に増えていた。また、「アルバイトの時間が多い」、「プライベートな時間が多い」、「科目の学習に身が入らない」も例年の倍増えている。

⇒改善策

「スマートフォンやタブレットの使用時間が多い」については、学生自身の自覚の問題もある。問2にあるように、まずは学生自身に学習時間不足を自覚させる必要があると考える。

また、「アルバイトの時間が多い」、「プライベートな時間が多い」、「科目の学習に身が入らない」も含めて、学生自身のみならず、家族にも必要な学習時間を伝え、特に1年生は、全面的にサポートして頂けるように、理解を得る必要があると考える。

問4 問1で回答した学習時間の内、国家試験対策の学習に使った1週間の合計時間

4年生は週に36.2時間と昨年とほぼ同じ時間であるが、3年生は週2.7時間である。3年生は実習が終わりに近い時期であり、約半数は実習が終わっているグループもある。実習が終わった状況であれば、国家試験の勉強に着手しても良い時期である。

⇒改善策

実習が終わった3年生は、国家試験問題に取り組むように指導する。1日1時間でも週5時間は学習できるため、週5時間を目標に国家試験の学習をするよう指導する。

問5 予習・復習に用いる教材はどれか

1年生は「講師による配布資料」77.6%、「シラバスにある教科書」63.5%、2年生も「シラバスにある教科書」70%、「講師による配布資料」65%であった。教員が提供した資料を用いた学習に偏っている傾向であり、学生の学習内容は教員の力量に委ねられているとも言える。主体的な学習とするためには、自分で学習する教材を自由に選択できる環境も必要である。「シラバスにある参考書」1年生13%、2年生22%と少ない。これは、参考書の活用について学生に充分伝わっていない可能性もある。また、「インターネット検索情報」1年生43.9%、2年生48%であった。インターネット情報は信頼できる情報を自ら判断する必要がある。

⇒改善策

主体的な学習とするためには、自分で学習する教材を自由に選択できる環境も必要である。参考書の活用も含め、学生が自己学習に用いる教材は自由に選択してよいことを学生に周知する必要がある。また、インターネット情報のメリット・デメリットや学習に有意なサイトについても学生に周知する必要がある。

問6 普段、学習している場所はどこか

本学の施設としては、「学生ホール、食堂、学生自習室、学生会館」が30~40%が最も多い。1、2年生は「本学の図書館」10%程度、「カフェ・ファミリーレストラン」25%程度である一方、3、4年生は「本学の図書館」30%程度、「カフェ・ファミリーレストラン」10%程度と逆転している。3年生は実習期間中のため、カフェなどの情報漏洩に繋がる場所での学習はさらに注意が必要である。1、2年生に関しては、図書館の有効活用を検討する必要がある。

⇒改善策

本学の施設として「食堂」は本来食事の場であり、学習環境として照度が十分ではないと考える。自己学習できる環境についての説明をオリエンテーションで行っているが、より適切な学習環境についても学生に周知し、学生ホールや図書館、あるいは教室の活用を促す必要がある。

本学での学習環境について、学生からの意見も収集し、図書館の改善などに活かす必要があると考える。

問 7 授業時間以外で学習やクラブ活動、友人との交流などのために学内にいる 1 週間の合計時間

昨年に比べ、1, 2, 4 年は時間数が減少している。この結果からも、問 6 と同様に、本学の施設を活用していない傾向を反映しているといえる。

しかし、1 週間に学部平均でも 3.5 時間の活用がある。授業が 5 時限目までであることや 3 年生が実習中であること、緩和されたとはいえコロナ禍であることを背景として考えると学内を交流の場として活用しているのではないかと考える。

⇒改善策

この点についても、学生からの意見を収集し、学生の委員会や修文祭などのイベントなどにより、学生同士の交流が今後より活発になるような環境づくりが必要と考える。

問 8 アルバイトを行っている 1 週間の合計時間

最も多いのは、2 年生 17.3 時間、次いで 1 年生 11.9 時間であった。2 年生は前年より 5 時間増えている。この時期の 2 年生は 8 回講義の関係などで授業時間数が減っており、授業がないコマ数が多くなっている。

中には週当たり 20 時間以上が 2 年生で 26%、1 年生で 19%あり、アルバイトをこの時期に集中して行っている可能性も推察される。

⇒改善策

アルバイトは学生生活に必要な費用を賄っている可能性もあり、一概に減らすことはできないと思われる。個々の学生状況をアドバイザー教員が把握し、成績と関連させて適宜指導する必要がある。また、必要であれば、保護者にもアルバイトの状況を伝え、協力して頂く必要がある。

<医療科学部 改善策>

1、1－3年生に共通する要望として

1) わかりやすい授業、解説、聞き取りやすい授業

医療科学部の教員の授業が難解でわかりにくいことは以前からたびたび学生に指摘されてきています。この対策として、各教員が学生の授業評価に耳を傾けること、お互いの授業に参加し、学生の立場からわかりやすい授業であるかを意見に書くことを実行して行きます。また、学生により勉強のわかりにくいところが異なっていますから、個人個人に合わせた説明はアドバイザーを中心に言い、自ら調べて勉強できるように指導して行きたいと思っています。

また、教員はオフィスアワーを設けていて、学生が授業で分からなかつたことを後からでも質問できる体制を取っています。この時間を利用することで一人一人の分からないことや疑問に思うことなどを解消できるよう対応していきます。

2) 国家試験問題の解説をしてほしい。

医療科学部の学生は国試に受かることが1番の関心事とあります。そのため、春休み、夏休みを利用して特訓の形で集中講義を行なって行きます。この場合、まず、自分で勉強することで、その補完のため、あるいはより、内容を深く知るために集中講義を利用するという主体性が必要です。また、アドバイザーのところで集中して勉強できる環境も整えたいと思います。

なお、カリキュラムポリシーに示しているように、当学部では臨床検査技師に求められる知識と技術を修得するためのカリキュラムを編成しています。各専門科目は国家試験受験資格の取得に必要なものです。授業内容と国家試験との関連性については、授業の中で関連する国家試験出題例を示し解説することで、関連性を示すように努めていきます。また、自己学習用の国家試験類題課題を出すことで、自己学修を促し、ディプロマポリシーの1つに掲げている、「臨床検査に関する基礎的知識・技術の修得」に到達するように学生の皆さんと共に歩んでいきたいと考えています。

2. 個別の要望

1) 空きコマをなるべく無くしてほしい。

どうしても時間割の関係上空きコマができてしまいますが、なんとか工夫して無くす方向に持って行きます。空きコマを利用して自主的に勉強するのも1つの方法です。

2) 1年生にオンライン授業、2年生にZOOMで国試対策

新型コロナの影響でやむなく始めたオンライン授業は、今後も活用していくつもりです。特に国試問題の解説等をオンラインで行うことも考えています。